



Assumption

聖母被昇天学院 学院報

Kindergarten
Primary School
Junior & Senior High School

誠実・隣人愛・喜び

～ since 1954～

No.21

2014.4.30



創立
60周年

幼稚園

Assumption
Kindergarten



みんなの笑顔 虹をかけて お空のてっぺんまで届け！ 届け！

幼稚園実習



中学校高等学校「家庭科」の授業で、幼稚園での保育実習体験を行い、夏祭りなどの行事には有志生徒がお手伝いに参加しています。園児と接する中で、自分自身の成長を感じられるひと時です。

夏祭り



幼稚園とグラウンドが“お祭り広場”に変身しました！

中学校
高等学校

Assumption
Junior & Senior
High School



それぞれに与えられた楽しく愛すべき人生を精一杯生きましょう。

たゆみない幼・小・中高の交流こそが
“キリスト教精神”継承の原動力

もちつき



幼稚園の園庭に、かまどで蒸した良い香りのお米が届くと、もちつきの始まり。小学校のお姉さんも参加して、「よいしょ！よいしょ！」、重くて大きな杵を力合わせてつきます。つきたてのおもちはふっくらと美味しく、みんなでお腹いっぱいいただきます。

小学校

Assumption
Primary School



Assumption Family! 小学校で学ぶわたしたちは、みんな一つの家族です。

アサンプション・チャリティ・デー



学院あげてのアサンプション・チャリティ・デーで行われる、チャリティ・コンサートでは各校園の子どもたちが、一緒に演奏する機会を持っています。2013年度から始まったチャリティ・イベントでは、幼・小・中高の子どもたちと保護者が参加する合唱団が生まれました。

ハンドベル



小学校ハンドベルクラブ、中学校高等学校ハンドベル部は、校内行事での演奏に留まらず、地域行事にも積極的に参加しています。様々な人との出会いを通して、一人ひとりの使命を見出していきます。

ほっとコンサート



毎年、12月23日(祝)に、みのお市民活動センターで行われる「ほっとコンサート」に中学校高等学校の聖歌隊とハンドベル部が出演しています。2013年からは、小学校コーラスクラブも加わり、地域の皆さんに心温まる演奏を届け、緊急支援募金を募っています。

読み聞かせ



中学校高等学校放送部の生徒が、小学校の読書タイムに本の読み聞かせを行っています。被昇天100選から選んだ本を、豊かな表現力で読むお姉さま方。子どもたちは本の世界へと引き込まれていきます。

無数の営みによって脈々と受け継がれてきた
キリスト教的価値観を育む教育は同窓生の誇り



創立60周年を迎えて

『川のほとりで』

創立60周年、誠に感無量である。中高時代についてまわった一期生という肩書。「私達の歩みがそのまま学院の歩みに重なる歲月」と故シスター堤の弔辞にも書いたが、「足先に還暦を迎え学院と同じ時間を生きた。歴史は誰の物でもない。時の喩に用いられる「川」のどこを掬い上げてもらっても「川」ではないように。そのなかでどれほどの涙や喜びがあったろう。流れに呑み込まれ形を留めないが、無数の人々の営みに感謝したい。

今から20年前、50周年に向けて創立当初からの記録や関係者の記録を集めた。その集大成が『喜びの譜』。獅子奮迅の働きをされた飯塚重俊先生を神様と創立者は送って下さった。その記念誌に欠けた頁は、先生ご自身の文章だと後で気付いた。シスターオルバ



Profile

一期生 東山 民子さん

1966(昭和41)年に聖母被昇天学院中学校高等学校を卒業した高等学校1期生。大学卒業後、同中学校高等学校で国語科教諭を務める。1976年～2011年中学校高等学校・国語科教諭。

『目差』

シスター方の目差に出会ってから60年が過ぎた。薄れゆく記憶の中で、それは今も鮮明だ。父と母に、娘の教育を被昇天に託そうと決心させたのはあの目差だったのかもしれない。自分の使命に生涯を捧げている人の真摯な目差だった。そして娘を見るその目に愛が溢れているのを見たのだ。戦後の価値観の混乱の中で、一生持ち続ける正しい価値観を愛情をもって教えてくれる学校を見つけたと喜んだに違いない。

私たちは、シスター方の愛と生き方を呼吸させて頂いた。神さまから見て正しいかどうかを判断し、人を思いやり、誰かの役に立ちたいと願い、「神さま、ありがとう。」と言うように導かれた。魂の奥深くに方向を示す磁石が埋め込まれたように思う。

今、見渡せば、まわりの不正義



Profile

一期生 島上 きくさん

聖母被昇天学院小学校卒業後、同中学校高等学校に入学。高等学校1期生として1966(昭和41)年卒業。大学卒業後、同中学校高等学校に英語科教諭として赴任し教鞭をとる。2011(平成23)年3月31日、定年にて退職される。

『創立60周年を迎えて』

学院創立60周年、おめでとうございませう。私同様、親子2代が学院の卒業生という方も多い事と思います。

私が小学校低学年のころ、宗教行事が今より身近にありました。復活祭にはお姉様たちがゆで卵に色鮮やかな絵を描いて、それを裏山(現在の北門・中高校舎のあたり)に隠し、私達1・2年生が一面草原の中からイースター・エッグを探するという行事がありました。

今はいもう見ることの出来ない景色がある一方、学院のモットー「誠実・隣人愛・喜び」と創立者聖マリ・ウージェニーの数々のお言葉や教えが今なお変わりなく受け継がれ、卒業生・在校生を姉妹として結びつけています。意外な場所です卒業生に出会ったときホッとする温かさを感じるの、Mott



Profile

同窓会会長 河崎 朋子さん

聖母被昇天学院小学校から同中学校高等学校へ進学し、1977(昭和52)年に卒業。高等学校12期生。2008(平成20)年4月1日から同窓会会長を務め、現在も在任中。

父母の会



中学校高等学校
会長 今岡 誠さん

聖母被昇天学院がこのたび創立60周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

娘は、学院に幼稚園からお世話になっております。幼稚園在籍時に創立50周年を迎え、あれからもう10年も経ってしまったのかと様々なことを思い出すと胸にせまるものがございます。娘は幼児から生徒へ、大人の入り口近くまで成長いたしました。その間は喜びばかりではありませんでした。迷いや戸惑い、親としてどうすべきか悩むことも多くありました。その都度、シスターや先生方から助言や激励、進むべき道を示していただき、娘だけではなく親としての成長も助けていただきました。

聖母被昇天学院はよき女性の育成を目指されていますが、シスターや先生方の優しさと厳しさのなかには、よき女性、よき母の姿があるように感じられてなりません。どうかこの先も、子どもたちの健やかな成長の場としてますますのご発展をされ、70年、80年と歴史を積み重ねていかれることを願っています。

ンとシスター堤の追悼文集と40周年記念誌を読めば、ほぼ学院の歴史が見える。全ての学院関係者を称え、感謝し、希望を新たにしよう。



小学校
会長 喜村 晃志さん

創立60周年おめでとうございます。

我が家が聖母被昇天学院小学校にお世話になり早6年目を迎えることとなりました。思い返せば、体験入学へ参加した際に應對してくれた上級生の丁寧な振る舞い、後日直筆のお手紙が届いたことに親子で感動し、その立派な姿に憧れて入学を決意したことを思い出します。入学後1年間お世話をしてくれた6年生とは、小学校と高校で離れた現在も学院内で会えば声を掛けてもらっているそうです。

役員をさせて頂いている中で子供達の日常を見る機会が多くなりました。校内を歩く度に「誠実・隣人愛・喜び」のモットーは、60年の長きに亘り脈々と受け継がれていることを実感します。

勉学のみならず、情操教育を学ぶ被昇天の子供達は温かい心を持つ立派な人物へと成長され、この世に大きく羽ばたいていくことでしょう。学院の素晴らしい歴史に感謝するとともに今後益々のご発展を祈念して私からのご挨拶とさせて頂きます。

に憤り、声をあげ、私利私欲には走れない、与えられた仕事は拒めず、どんな時にも「自分は守られ助けられている」と感じているどこか樂觀的な卒業生に必ず出会う。



幼稚園
会長 南出 勝治さん

聖母被昇天学院がこのたびの創立60周年記念を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。このよき年に、輝かしい伝統を持つ当学院に携われたことに誇りを持ちます。

印象に残ったエピソードとして、2013年度聖母被昇天学院幼稚園運動会に理事長杯というクラス選抜リレーがあり、最近の運動会にあまりない1等賞がありました。応援する人、走る人共に熱くなっていました。とても感激しました。ある幼稚園では全員一緒にゴールというところもあるそうですが、勝ち負けのない運動会は湧かないものではないでしょうか。私の子供は年少の運動会で負けてくやしくずくと泣いていました。年中の運動会でも負けて泣いていましたが、年長の運動会でがんばると年少のときよりもずっと前向きな発言で成長していることが実感できました。幼少期の経験や体験は子供の人格形成に大きく影響していると言われています。今後、子供達が少しでも多く心に響く経験や体験ができることを期待致します。

herとお呼びしたシスターから教えていただいた「互いを思い合う心」がそこにあると感じるからでしょう。

地域社会や保護者にも愛される所以は
キリスト教精神を体現した教育にあり



創立60周年を祝して



Profile

箕面市長 倉田哲郎さん

1974(昭和49)年、静岡県清水市(現静岡市)生まれ。東京大学法学部卒業後、1997(平成9)年に郵政省入省。2003(平成15)年8月、総務省情報通信政策局より箕面市役所に出向し、政策総括官兼市長公室専任理事として「改革」と「政策」を担当した。慣れ親しんだ箕面で地方自治に携わることを志し、2008(平成20)年3月に総務省を退職。同年8月には第15代箕面市長に就任し、当時の現職として全国最年少の市長となった。2012(平成24)年に再選を果たし、現在に至る。市長就任以来、その若さを活かして「まず動くこと、行動すること」を旨としたスピード感のある行財政運営を徹底。斬新な施策を次々と打ち出しながら、箕面のまちの「元気づくり」と「魅力アップ」をめざし全力で取り組んでいる。趣味・特技は日本泳法(水府流太田派)。箕面で生まれ育った3人の息子を持つ父でもある。

聖母被昇天学院が創立60周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

実は、箕面町・萱野村・止々呂美村の合併により「箕面市」が成立したのは、聖母被昇天学院の創立から遅れること2年後の1956年。つまり、聖母被昇天学院は、箕面市が産声を上げたときにすでにこの地に存在し、現在に至るまで創立以来の精神を守り続けて子どもたちを育て輩出し、もはや地域にとって欠かせない大切な学校となっております。

学校をとりまくオーラや、朝夕に通学する生徒さんたちの姿からうけるイメージを思いつくままにあげれば、「凛」として「毅然」と「清楚な」「清々しい」「明るく笑顔

で」といった言葉が浮かび、この学院の存在感は、普段の箕面市の空気を、明るく凛としたものにしてくれていると感じています。

また、「箕面まつり」をはじめとする地域行事への笑顔での参加や、いつも「節食ランチ」「アシンプション・チャリティ・デー」などから市の福祉へご寄付をいただくことにつきまして、毎回深い感謝の念を抱かずにはいられません。そして、ハンドベル・放送コンクールなど各種大会への華々しい出場実績を目にするたびに、地元市として大変誇らしく嬉しく感じます。

どうかこれからも、この地を表す学院として活躍・発展されますことを、13万人の箕面市民を代表してご祈念申し上げます。さて、ここまででは市長として

のお祝いのメッセージです。そして、ここからは保護者として感謝とお祝いを申し上げたいと思います。

3年前、「お友達はできるかな」「トイレは一人でいけるかな」「先生の言うこと聞けるかな」などなど、たくさんさんの心配をしながら幼稚園に送り出した長男。幼稚園に入っただけの頃、いつの間にか家でも「おかたづけ」ができるようになっていて、とても驚いたのが昨日のことのようです。先生たちが、本当に丁寧に優しく子どもを導いてくださっているのを実感しながらの3年間でした。

毎年恒例の新年「おもちゃつき」は、普段は目立たないお父さんたちが活躍する数少ない機会として、欠かさず参加させていただきました。各クラスのお餅つき体験のアシストに入り、子どもの前でカッコいい姿を見せる役割がある一方で、出番待ちの間は、裏方でひたすら米を蒸かしマシンのように餅をつき続け、お土産分を大量生産するなど、お父さん同士のコンビネーションも抜群でした。そのほか、「ふれあいスポーツデー」「アシンプション・チャリティ・デー」など、各種行事に参加させていただく折には、いつも学院の保護者の皆さんの良質さを強く感じてきました。

そんな長男も、先日、ついに卒園式を迎えました。3年間、一度も園児代表のような役割のなかった長男でしたが、最後の最後の共同祈願で最前列で言葉を述べるお役目をいただきました。事前にまったく知らなかった私たちは、びっくりするやら涙が出るやらで、心から感動した卒園式でした。あとから長男に聞くと「お楽しみだから内緒にしてたんだ」とのこと。そんな小粋な計らいができるようになったのも、先生たちに大切に心を育んでいただいたおかげと感謝しております。

そして、新年度からは、新たに次男がお世話になります。また長男と同じように、日々の成長の感動を味わえるのかと思うと、幼稚園に送り出すのが楽しみになります。

創立以来60年にわたり、毎年、毎年、こんな風に丁寧に、たくさん子どもたちを育ててきてくださったと思うと胸が熱くなります。どうかこれからも、たくさん子どもたちに愛情を注ぎ続けていただきますようお願い申し上げます。

改めまして、箕面市長として、そして、一保護者として、創立60周年おめでとうございます。今後の学院の発展を心からお祈り申し上げます。



橋本みちよさん(左) まゆりさん(中) みのりさん(右)

Profile

橋本みちよさん 1982(昭和57)年、聖母被昇天学院中学校高等学校卒業。高等学校17期生。2004(平成16)年4月から評議員に就任し、現在に至る。2009(平成21)年3月まで同窓会チャリティ部長も務めた。夫の橋本圭介さんは、2008年度小学校父母の会会長、2012年度中学校高等学校父母の会会長。
橋本まゆりさん 聖母被昇天学院小学校・中学校を卒業し、2014年度現在は、高等学校50期生として3年生に在籍中。
橋本みのりさん 聖母被昇天学院小学校から同中学校高等学校へ進学。高等学校49期生として、2014(平成26)年3月に卒業。

聖母被昇天学院創立60周年、おめでとうございます。長い60年の歴史のなかで私は10年、娘たちは12年を被昇天で過ごさせていただきました。その間に会わせていただいたシスター、先生方、職員の方々には大変お世話になり、数多くの思い出とともに感謝の気

持ちでいっぱいです。そして、何よりも被昇天の精神のなかで共に育った友人たちと出会うことができたのは私にとって大変幸せなことでした。
被昇天で受けたキリスト教精神の素晴らしさを改めて実感したのは、実は私が高校を卒業して

10年ほどたった時でした。

当時、私自身とても悲しい気持ちでいる時期がありました。家族もそばにいてくれましたが、暗く長いトンネルから抜け出せずにおりました。その時、被昇天時代の友人たちが代わる代わる手紙を送ってくれました。「返事は書かなくて良いから…」という書き出しの手紙には、私を思い慰める励ましの言葉とともにどの友人も聖書の言葉を書いてくれました。それは自分も悲しく苦しい時に読む聖書の言葉であったり、つらかった時に友人から贈られた聖書の一節であったり、学生時代にシスターや先生方から聞いた話でした。そして最後には、私のためにひたすら祈っていることが添えられていました。

他者の痛みを思い、ともに悲しむという事はまさに被昇天で教えられた事でした。毎日聞いている聖書の言葉や創立者聖マリ・ウージェニーの教え、シスター、先生方の話は気づかないうちに言葉のシャワーとなり、私たち生徒に自分と同じように隣人を思う事の大切さを身につけてくれていました。

創立者の教えに「光で養われた者だけが光を与えることができます。」とあります。娘たちが小学校へ入学する時にこの言葉を思

い出しました。温かい空気に包まれて、光で養われ、そして自分も隣人に光を与えることができる様な女性に育ってほしい、そんな豊かな感性を身につけていつてもえたら…と思ったのです。

娘たちが被昇天でどれだけ大事にしていたかを実感するのは、おそらく社会へ出て試験にぶつかった時でしょう。しかし被昇天で受けた精神の芯があれば悩みながらも乗り越えてゆけると信じています。そして、いずれ次の世代を育ててゆく時に温もりとともに思い出す言葉がたくさんあるでしょう。

二十一世紀の社会は、グローバル化する世界、多様な価値観などめまぐるしく変化しています。女性が社会で活躍する場も増え、学校教育を取り巻く環境は今まで以上に進化を求められています。学院でも新しい時代の変化に応じた様々な取り組みをされています。そんな変化のなか、目には見えないキリスト教価値観は変わることがありません。伝統と温かい環境で育まれた生徒たちをずっと深く支えてゆくでしょう。この被昇天の空気とともに、これからも新しい歴史が築かれてゆきますように、お祈りしております。



写真でみる聖母被昇天学院 60年のあゆみ



1960～65年 旧聖堂建設中

小学校の校舎に続いて、学院の心のよりどころである聖堂が建てられました。現在のテニスコートの場所にあった赤い屋根の平屋です。



1955年 小学校校舎が竣工
桜の木も芝生もまだ植わっていない竣工直後の写真です。小学校1年生はそれまで幼稚園の園舎で授業を受けていましたが、いよいよここで学ぶようになりました。



創立当時の可愛い通園通学バス
小学生ならば一度に2学年ずつの子供たちを乗せて、桜並木を毎日走りました。

1954～1963 [昭和29～38年]



1965年 旧聖堂の完成

旧聖堂は、四季の緑や花壇に囲まれて美しく、簡素であっても厳かな場所であり、修道院にも近く、いつ見てもシスターが何人か祈っておられました。



1973年 幼稚園新園舎の完成
学院の南側の新しい場所に建設中の現園舎の様子が写った航空写真です。



1970年頃 書道部
この頃、プロの書家の先生の熱心な指導により書道部の活動が盛んでした。夏休みの暑いときに、錬成会と呼ぶお稽古の会もありました。

1964～1973 [昭和39～48年]



1976年頃 旧聖堂前

旧聖堂は旧修道院と短い渡り廊下でつながっていました。屋根には天窓があり、御聖体に陽の光が当たるように工夫されていました。屋根には十字架が掲げられています。南側には美しい庭がありました。



1972年 中学校舎の増築
現在の職員室や特別教室、講堂がある棟が増築されました。それまでは特別教室は校舎を行き来して小学生と共用することがありましたが、これ以後は少なくなりました。



1974年頃 クリスマス行列
豆電池のロウソクが赤、黄、橙とゆれて、白いガウンの子どもたちは天使のよう。クリスマスのロウソク行列が慣例になりました。

1974～1983 [昭和49～58年]



～1985年 新聖堂建設中 1986年完成

新聖堂の立っている場所には、もともとの地形のままの小高い盛り上がりがあり、雑木が生えていました。そこを造成して新しい聖堂が作られました。校舎の配置が整然とした感じになりました。



学院創立40周年の航空写真
まだ短大が使っていたころの北校舎も見え、現在の校舎配置にほぼ近い景色です。現在の駐車場の場所に旧修道院があり、第1体育館はまだ古い建物です。

1984～1993

[昭和59～平成5年]



新聖堂前

旧聖堂の跡地にテニスコートが、運動場の南側、かつて幼稚園の旧園舎があった場所に新しい体育館が見えます。



クリスマス礼拝

学院創立以来毎年演じられるクリスマスの聖劇です。中でもかわいいのが白いタイツと着ぐるみの、幼稚園児の演じる羊さんと、羊を誘導する低学年の小さな羊飼いです。



運動会

上級生が下級生の世話をしながら、みんなで力を合わせることは創立以来変わらない運動会の風景です。

1994～2003

[平成6～15年]



現在の聖堂

二階建ての堂々とした建物になりました。建物が変わっても、学院の精神の中心は、今も変わらず聖堂にあるといえます。それを表すように、聖堂は日々静かに学院を見守っています。



～現在

現在は北門が正面になっています。通用口も美しく整備され、エレベーターができました。耐震補強もされ、北校舎とも各階で繋がりました。



～現在

美しく整えられた緑が白亜の校舎に映えています。卒業生が懐かしむローザビルディングの姿です。

2004～2013

[平成16～25年]



2004～2013年の 聖母被昇天学院

学院

- ・創立50周年記念感謝ミサ・式典の挙行
- ・創立50周年記念音楽祭を開催
- ・西門前にマリア像を設置

教育

- 幼 「ゆき組」が加わり、10クラスへ
- 幼 定員285名を310名へ
- 中高 TOEIC・TOEIC Bridgeの
中 学内実施がスタート



創立50周年記念音楽会
(2004年6月19日 豊中市市民会館大ホールにて)

2004
[平成16年]

学院

- ・小学校校舎リニューアル
- ・スクールバスにマイクロバスを導入し
計4台へ
- ・創立50周年記念誌の発行

教育

- 小 定員300名を360名へ
- 中高 特別課外活動ハンドベルが、京都
議定書発効のNGO集会に出演し
オープニング演奏を行なう
- 中高 校長にSr.岡田恵子が就任



特別課外活動ハンドベル

2005
[平成17年]

学院

- ・第1体育館の竣工・祝別・定礎式
- ・立体駐車場を新設
- ・中高生、教職員用の駐輪場を新設
- ・中高校舎(北面)リニューアル
- ・中高校舎に談話コーナー設置
- ・中高校舎と旧短大校舎を渡り廊下で
結び、北館として活用
- ・小学校に調理実習室を設置

教育

- 中高 アサンプション交流プログラム
フランス研修旅行の開始
- 中高 アサンプション交流プログラム
ベルギー研修旅行の実施
- 中高 外国語スピーチコンテストに、
暗唱の部・弁論の部を導入



第1体育館竣工
(2006年11月6日)



フランス研修旅行

2006
[平成18年]

学院

- ・北館に食堂がオープン
- ・学院報の創刊
- ・創立者聖マリ・ウージェニーの列聖式
がローマで開催される
- ・幼稚園園舎リニューアル
- ・中高校舎(南面)リニューアル工事終了
- ・聖堂で列聖記念感謝ミサを執り行う
- ・学院長室の改修

教育

- 中高 土曜講習の開講
- 中高 寺子屋的自習室の開講



列聖記念感謝ミサ(2007年12月2日)

2007
[平成19年]

学院

- ・学院長にSr.中山カナ子理事長が就任
- ・シスターグループの設置
- ・スクールバスが4台から計5台へ
- ・聖堂で列聖感謝ミサを行う

教育

- 小 校長に坂本清美先生が就任
- 小 長崎修学旅行の開始
- 中高 校長に中戸満先生が就任
- 中高 希望者による国内語学研修の開始



修道会のシスター方

2008
[平成20年]

学院

・聖堂リニューアル

教育

- 幼 スクールバスに、「みずいろコース」と「オレンジコース」が加わり全8コースになる
- 小 アサンプション・アフタースクール(課外講座)開講
- 小 京大フォーラムにコーラスクラブが参加
- 小 日本メキシコ交流式典「第17回フィエスタメヒカナ箕面2009」に、小学校コーラスクラブと中高ハンドベル部が参加
- 中高 西日本フランス語コンクールが本校主催で開始



アサンプション・アフタースクール

西日本フランス語コンクール



2009
[平成21年]

学院

・理事長に森田和一理事が就任
・第2体育館リニューアル

教育

- 小 食育の授業を導入
- 小 礼法の授業を導入
- 中高 水曜講習の開講
- 中高 語学研修の開始(中2)
- 中高 第14回ハンドベル世界大会にハンドベル部が参加



語学研修

食育



2010
[平成22年]

学院

・聖堂前校庭の芝生化
・中学校高等学校管理棟の外壁改修

教育

- 幼 アサンプション・キッズ(長時間保育)開始
- 幼 特別預かり保育(長期休業中)開始
- 幼 アサンプション・プレスクール(2歳児クラス)開設
- 幼 課外教室にスイミングとETM(えいご遊び)が新設される
- 小 新学習指導要領の全面实施
- 中高 校長に平沢真人先生が就任
- 中高 オリエンテーション合宿開始(中1高1)



ETM(えいご遊び)

オリエンテーション



2011
[平成23年]

学院

・聖母被昇天修道会新総長にSr.マルティン・タブソバが就任
・中学校高等学校新入生より制服がリニューアル
・学院長にSr.宮本恵子が就任

教育

- 中高 中学校新学習指導要領が全面实施
- 中高 書道教育が評価され、大阪府教育委員会から「がんばった学校支援事業」に指定される



書道教育

2012
[平成24年]

学院

・小学校の児童用トイレリニューアル
・テニスコート改修
・中学校高等学校の書道室リニューアル
・アサンプション・チャリティ・デーで、チャリティ・イベントを実施する。弦楽アンサンブル「Assumption Strings」合唱団「Assumption Choir」の結成
・高等学校教室に電子黒板機能搭載プロジェクター設置

教育

- 小 国際交流・外国語センター開設
- 中高 夢サポート入試(中学校入試)の開始
- 中高 高等学校新教育課程の実施(高1)
- 中高 大阪府教育委員会から「学校経営推進費補助対象校」に指定される



アサンプション・チャリティ・デー

国際交流・外国語センター



2013
[平成25年]



創立60周年をお祝いして

総長／シスター マルティン タフソバ



箕面の聖母被昇天学院の皆様へ、卒業生の皆様へ

旧約聖書の創世記の天地創造の物語の中には、神様がすべてのものを創造され、そして特に、神様はご自分にかたどって人を造られたとき、それらをご覧になって、「極めて良かった。そして、喜ばれた」と書かれています。神様から造られた被造物であり、宇宙の中の人間として、私たちは創造主がよい方であること、そのすばらしさを讃えます。そして、年齢を重ねるにつれて、私たちのいただいた生命のすばらしさを祝い、感謝し、体験を分かち合い、生活の中でいただいた知恵を伝える機会が与えられるようになります。

箕面の聖母被昇天学院の創立60周年記念は、現在教育を受けておられる方々、皆様方と皆様方の国のために、質の良い教育を伝えるためにこの学院で働いておられる方々、過去において働かれた方々を通して、またシスターたちを通してなされた素晴らしい働きに対する感謝を表すときでもあります。皆様方が受け、作り上げてきたこの教育によって、皆様自身の生活に、人々への活動や奉仕のために目標や光が与えられてきたことでしょう。それは皆様方の家庭の中や、皆様の住んでいる地域での働きのためにも他の人々とは異なる目標と光が与えられているに違いありません。

この記念と祝いの時が、今までを振り返り、そして感謝するために、皆様方の絆を強め、一致を深めるために、皆様方のいのちの源泉に導く機会となりますように。変動のこの時代にあつて、この記念と祝いの時が、皆様方の今日の個人的な生活を見直すため、皆様方の国の現実と、世界の現状の中で、皆様方の使命の意義を深めるための機会となりますように。

創立者聖マリ・ウージェニーは絶えず私たちに次のことを思い出させます。「私たち一人ひとりにはこの地上において使命があります。神様がこの人類にお望みになっていることが実現されるために、私たちがどのようにすればその使命を果たすことができるかを探さなければなりません」と。この創立60周年の祝いは、皆様方の間の連帯を新たにする機会となり、皆様方にとって大きな喜びの時となり、皆様方の種々の役割、使命の中で新しい出発点となりますように、そして、皆様方を取り巻く人々に豊かにいのちを与える喜びを見出すことができますように。

日本とこの地球が毎日、創造主の栄光と人類の幸せの場となりますように、皆様方お一人おひとりの存在と皆様方の行っておられることへの感謝を込めて！皆様におめでとうと申し上げます！



学院創立60周年にあたって

理事長／森田 和一



「感謝」と「決意」

「感謝」 私たちの学院が創立60周年を迎えられたことに心から感謝申し上げます。

学院の母胎である聖母被昇天修道会は、今から175年前パリで創立されました。母胎修道会から1952年にシスター5名が日本に派遣され、1954年、キリストを宣べ伝える教育機関として学院が開設されました。

創立者聖マリ・ウージェニーは、キリストの真理こそが真の正義と平和をもたらすし、ひとをいのちある人間として大事にされる世界を築くことができると信じておりました。そのために子供たちの最も身近に居て、家庭にあつて影響力の強い女性を育成しようとする教育事業に着手いたしました。愛と平和に満ちた世界を築くことに貢献できる女性を育成することが学院の目標であり、それを表すために「誠実・隣人愛・喜び」をモットーとして掲げております。

60年の歩みを振り返り、なによりも、日本軍によって被害を蒙った「うらみつらみ」を乗り越え、多くの献金を募って小学校の校舎を築いてくださったフィリピンの人たちに感謝しております。今も校舎を「ローザビルディング」と呼び感謝の心を表しております。本当にありがとうございます。

「決意」

2013年末逝去したネルソン・マンデラさんの言葉が心に響いています。

「肌の色や育ち、信仰の違いを理由に他人を憎むようにうまれついている人間はいない。人間はこの世に生まれてから後に、他人を憎むことを学ぶのだ。人間が生まれながらに身につけているのは、他人を愛するということだ。」

創立60周年を迎え、「ひとがひとを愛しあう、愛と平和に満ちた」世界の実現のための働き手を育成する原点に立つこと、また、一人ひとりが神様から無限の可能性を与えられている「宝物」として大事にし、無限の可能性に気付かせ、引き出し、発揮させるキリスト教育を実践し続けることを決意しています。「生まれながらにして他人を愛することを身につけている」ことに気付かせ、「愛に満ち溢れている」学院であり続けること、そして、キリストを宣べ伝える使命を果たし、発展し続けて行く学院であることを決意しています。

多くの人々に支えられた60年の歩みに「感謝」とともに、学院が創立の原点に立って、生成と発展し続けて行くための「決意」を申し上げます。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

